

掲載25社で、未来をつくる人材を募集!

特設求人情報サイトで

受付スタート。

BRUTUS®

Google 資生堂 Sony 吉本興業 電通

PARTY 楽天 teamLab JAMSS

takram design engineering Smiles:

D&DEPARTMENT Peach Aviation

あたららしい仕事と、
僕らの未来。

ブルータスの求人情報サイト <http://hellonetwork.jp>

2012年7月1日号 6月15日発売 (毎月1日) 115ページ 定価630円

2012 7/1 特別定価 630円



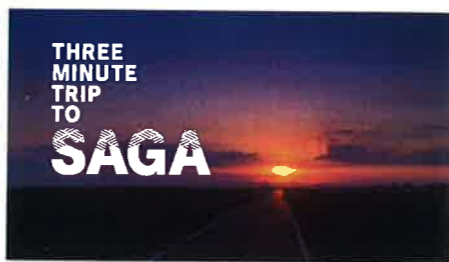
photo: Shigeo Inuzuka

日本や佐賀県、東京モーターショーもクライアントです。

ビジネス・クリエイション局ビジネス・デザイン室の倉成英俊さん。2010年日本APEC (1) のプロデューサーや東京モーターショー2011 (2) のコミュニケーションディレクターを担当。既存の広告業務とは異なる、大規模イベントを担当するチームをイベントごとに結成。昨年は、出身地・佐賀県をプロデュース。佐賀県の国際戦略PRのコンセプトを立て、同僚のクリエイターらでPRビデオ (3) を作成。こうした仕事は、会議ではなく、ちょっとした相談から始まるケースも多いとか。



1
2 3



国内広告業界の頭打ち

経済産業省の調査データによると、国内広告業の売上高は2000年頃から横ばい。07年をピークに減少傾向に転じ、11年にやや持ち直したものの、ピークには及ばず。広告売り上げの大部分を占める新聞、雑誌、テレビ、ラジオの4媒体も同様に減少傾向。マスメディアの影響が弱まりつつあるなか、上昇の兆しは見えてきそうにない。近年は、インターネット広告のみが着実に売上高を伸ばしている。

国内メディアを一手に掌握。世界一の売上高を誇り、夕留に自社ビルを構える広告会社。あらゆる新ビジネスの陰に潜むフィクサー的ムードも完備。そんな電通の仕事が今、徐々に広がり始めている。社会人なら動向をマークしておいて損はない日本広告界の巨人、電通の新仕事ノアを牛耳る姿は「広告界のガリバー」と揶揄されることも。ビジネス業界からネット界隈まで常に話題に事欠かないのは、良くも悪くも注目企業の証である。

電通が主戦場とする国内広告業界の頭打ちは否めず。新たな飯の種を求め、広告会社各社はビジネスの種まきに奔走中。もちろん、ガリバーといえどもこの状況は悩みの種。電通は、売上額の約70%を占めるメディア事業を屋台骨としながら、新ビジネスを模索。そこで、発足したのがビジネス・デザイン室。人材を企業広告に紐づける既存の縦割り体制に対し、社内を横断して活動。メディアにこだわらず、あらゆるアウトプットの可能性を

海外報道を通じて日本をPR。世界中が注目するAPECの模様は、必ずや21カ国・地域の首脳とセットで世界中で報道されるはず。そこに、日本がアピールしたい産業資源や観光資源を忍ばせる作戦である。確かに国内報道でも、当時の菅直人首相をはじめ各国要人がデジタルの池を覗き込む光景には、なんとなく見覚えが。こうした仕掛けが、立ち話や歓談を促すと同時に、デジタルサイネージ技術を海外に発信。ともすれば、実体なきコンセプトが後づけされがちな国家の催し。APEC自体をメディアと捉えた、なんとも巧みなプロデュース。昨年の東京モーターショー2011では、コミュニケーションのディレクターを担当。リーマンショック以後、来場者が激減した同イベント。担当した昨年、「世界一のテクノロジーモーターショー」の名のもとに、見事、前回比37%増という来場者数84万人超えを達成。「チーム全員でつかんだゴール。目標達成に必要なファクトを100個くらい並べて、みんなで一つずつ実現していったんです」と倉成さん。各担当者の役割を明確化し、チーム力で大成功。そんな倉

hello, new work !

p. 089

電通

chapter 3
new domain

電通

広告 / メディア / クリエイティブ

でんつう

APECもチーム青森もおまかせ。広告領域、絶賛拡大中!

クライアントは日本。APECプロデューサー。

2010年日本APEC。コンセプト「日本の強みで、おもてなし。」の制定など、総合プロデュースを電通が担当。APECは、アジア太平洋地域の21の国と地域が参加する経済協力フォーラム。



hello, new domain !

東北の大漁旗を、代表ユニフォームに!

カーリング女子前オリンピック日本代表「チーム青森」のユニフォームデザインも電通の仕事。漁船で使われる大漁旗を使用し、応援旗も製作。人々からの応援を集めるデザイン。

hello, new work !

p. 088

text / Junya Hirokawa

chapter 3
new domain